ろ地きゅうり作りのくふう

きゅうりをつくり始めたばかりのころは，スイカのように，地面につるをはわせてさいばいしていました。しかしそれでは，きゅうりの色が変わってしまったり，病気になったりして，よいきゅうりがつくれませんでした。

そこで，トマトのように竹の支柱と支柱の間に魚をとるあみをはって，きゅうりのくきをはわせるようになりました。支柱を使うことで，きゅうりが直接地面につかず，よいきゅうりができるばかりでなく，しゅうかくするときも，こしがいたくなることが少なくなり，らくにしゅうかくできるようになりました。

今では，竹の支柱は，鉄の支柱に変わり，魚をとるあみは，ナイロンでできたあみに変わりました。

ハウスきゅうり作りのくふう

ちかごろは，ビニルハウスの中できゅうりをさいばいする農家がふえてきました。ハウスきゅうりは，風やしもの害がなく，ハウスの中の温度を一定にたもつことができ，寒い時期にもきゅうりを育てることができます。

１年間に２回，しゅうかくすることができ，期間が長くなることでたくさんのきゅうりがとれます。また，ろ地きゅうりとしゅうかくの時期がずれるので，高いねだんで売ることができます。